

沿線別相続税マップ あなたの宅地は？ **首都圏
主要221駅**

週刊朝日

独占
吉永小百合さん
「戦争はだめ、核もだめ」

8・21
380円

学生公認モデル

山本太一
電気通信大学

マガ
7エス

**反知性主義と
地方の乱**
安倍政権の〆爆弾、

**猛暑に効く
温泉&滝行**

追記 阿川弘之さん



手術後の後遺症で発症。大腸がんによる大腸閉塞も増加

腸閉塞

ちょうへいそく

腸閉塞は胃、大腸、子宮、卵巣、そして虫垂炎（盲腸）などおなかの手術後、その後遺症で発症しやすいといわれる。昨今では、進行大腸がんによる大腸閉塞も増え、新たに大腸ステント治療も保険適用でされている。

東京都在住の主婦、川西彩子さん（仮名・51歳）は、2014年の夏、子宮頸がんが見つかり、地元の大学病院で、子宮と卵巣、卵管などを摘出した。その後、放射線治療を受け終え、通常の生活に戻りかけていた15年の1月、強い腹痛と吐き気を訴え、手術した病院の主治医のもとを訪れた。

画像検査をすると小腸に腸閉塞が認められた。腸閉塞は、腸管と腹壁や腸管同士が癒着したりして、腸管が狭くなり、通過障害を起こして、猛烈な痛みや吐き気、嘔吐、おなかの張りを生じる病状だ。そのまま放置すると、腸管が壊死したりして、命に関わることもある。

術すると、その後遺症として発症することが多い。術後の癒着に伴う腸閉塞は約2割に生じるといふ。

通常、癒着による腸閉塞には、保存療法をおこなう。絶飲食をし、点滴して、2週間くらい経過をみる場合が多い。場合によっては、イレウス管という吸引チューブを鼻から患部へ入れて、閉塞した腸のなかにたまった腸液や食べ物を吸引して、腸の腫れを引かせることもある。また、あまりにも症状が改善しない場合は手術も検討される。

川西さんの場合も、再入院による保存療法で一度は改善したが、半年の間でさらに2回腸閉塞が起こり、入院が続いた。そのため、手術を検討したが、川西さんは子宮頸がん手術後の放射線治療により、腸管がも

ろくなっているため手術が難しいと担当医から説明された。悩んだ結果、川西さんは知人の紹介で板橋中央総合病院外科の腹腔鏡手術センターを、15年の5月に訪れた。

腹腔鏡手術で癒着の可能性が低く

「川西さんのように繰り返し閉塞を起こしている場合は手術が必要です。ただ、川西さんは前の手術を開腹手術でおこなっていたため、再発防止も含めて、腹腔鏡手術でおこなう必要があります。腸閉塞の腹腔鏡手術は、ある程度の経験が必要なため、当院を訪れたようです」

そう話すのは、川西さんの執刀をしたセンター長の黒崎哲也医師だ。「繰り返し腸閉塞を起こす



板橋中央総合病院外科・
腹腔鏡手術センター長
黒崎哲也医師



湘南鎌倉総合病院
消化器病センター部長
江頭秀人医師

方は、いつまた発症するかが不安で、食べることが怖くなったり、旅行にも行けなくなったりするなどQOL（生活の質）が悪くなります。せっかく、がんの治療を克服したのに本末転倒になってしまいます」（黒崎医師）

一般的に、手術の後遺症の腸閉塞は、開腹手術よりも腹腔鏡手術のほうが少ないと言われる。腸管は常に動いているが、腸が外気に長時間触れる開腹手術では、腸が冷えたり乾燥したりして、むくみ、癒着が起きやすくなるからだ。

一方、腹腔鏡手術は、おなかを切り開かず、腹部に開けた4〜5カ所の孔からカメラや手術器具を入れておこなう。普段のおなかの状態を保ったまま手術でできるため、癒着の可能性を低